

市政ひろば



戦没学徒を追悼

終戦記念日の八月十五日、戦没学徒記念若人の広場（阿万、大見山）で、戦没学徒追



▲メモリアルタワー前での献花式

悼献花式が行われました。式典には、中田勝久市長や

原田一三淡路県民局長、北村利夫市議会議長などの行政関係者や市議会議員十六人が出席。慰霊塔の前で、正午から一分間の黙とうの後、参列者一人ひとりが純白の菊を供え、先の大戦で散華された戦没学徒

若人の広場で献花式

の皆さんを、追悼しました。あいさつで中田市長は「尊い犠牲を忘れず平和を継続していきたいものです」と恒久平和への思いを述べました。

昭和四十二年から同五十七年に建てられた慰霊塔、展示館、研修施設を持つ同広場は、阪神淡路大震災後閉鎖されており、市では景観を活かした公園化をめざし、関係者へ働きかけを続けています。

差別のない明るい社会づくりへ

県人権教育研究大会淡路地区大会

七月二十八日、第五十四回兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会が、三原公民館などを会場に開催されました。

この日は淡路島内各地から約七百人が参加。元衆議院議長土井たか子さんの記念講演に続き、午後は十三の分科会に別れ、様々な立場で活発な意見が交わされました。

性、高齢者、在日外国人への差別などに目を向けてきましたが、近年いじめや虐待、またインターネットや携帯電話などで人権を侵害する新たなケースも増えてきています。だれもが平等に暮らせる社会づくりのため、あらゆる差別の解消に向けてこの大会では、研究と実践を深く学ぶことを目的に、行われたものです。



▲活発な意見が交わされた分科会

外国の学生らが日本文化に触れる

セライナ市使節団来訪



▲地元の子どもの手ほどきで茶道を体験する団員

南あわじ市と姉妹都市提携を結んでいるアメリカ・オハイオ州のセライナ市から、学生や付き添い計十三人の使節団が訪れ、七月二十一日から五日間滞在。市内の暮らしを経験しました。

滞在中団員は、地域の一般家庭にホームステイをしながら、市内各地で茶道や習字、和太鼓などの日本文化を体験。郷土芸能の淡路人形浄瑠璃の鑑賞、渦潮の見学もしました。また、バーベキューや海水浴などでは、地元学生と交流を深め、学生らは「素晴らしい思い出をありがとうございました。感謝の気持ちを話していました。」

神戸淡路鳴門自動車道の料金低減化に向け

島民フォーラム

神戸淡路鳴門自動車道の料金低減化を実現し、淡路の活性化に結びつけようと、「第一回淡路島民フォーラム」が八月十一日、しづかホール（淡路市志筑）で開催され、約八百人が参加しました。島内の連合自治会や各種団体などで構成する「神戸淡路鳴門自動車道利用促進淡路島民会議」（会長…中田勝久市長）の主催。

「世界の架橋と地域の発展」と題して基調講演し、世界の長大橋の多彩な通行料金割引制度を紹介。また島内導入の具体案として、島内に登録された車両の無料または低料金制などを示しました。



▲パネルディスカッションで意見を交わすパネラーの皆さん

交換しました。

年金だより

「年金時効特例法」が施行

消滅分を全額支払い

年金記録の管理に対する国民の信頼を確保することを目的に、「年金時効特例法」が制定され、七月六日から施行されました。これにより、年金記録の訂正による年金の増額分は、時効により消滅した分を含めて、ご本人または、ご遺族の方へ全額をお支払いされます。

これまで、年金記録が訂正された結果、年金が増額した場合でも、時効消滅により直近の五年間分に限ってお支払いしていました。

しかし、この法律の施行により、全期間さかのぼって支払われます。

▽対象者 すでに年金記録が訂正されている方で、訂正により年金額が増えた方、または受給資格が確認され、新たに年金をお支払いすることとなった方
消滅分が全期間さかのぼって支払われます。

年金相談

- ▽日時 10月5日（金）午前11時～午後3時
- ▽場所 南淡公民館
- ※必ずご予約ください
- ▽申込み 市民課 ☎43・5023

ふれあい市長室

子ども議会の答弁にたいして！

南あわじ市長 中田勝久

台風シーズンを迎えました。が、既に四号・五号台風の上陸が続き、市民の皆様にはその都度ご心配されたことと存じます。台風四号の折には、市災害対策本部を設置し、消防団員、自主防災組織、自治会の方々の深夜に及ぶ見回りや待機、避難所における対応に感謝申し上げます。市役所においても庁舎全職員出動の三号配備で対応しました。今後においても災害対策に万全を期すよう努力を重ねてまいります。

さて、先般「子ども議会」が開催され、その質問内容は本質をついたものばかりでした。「市長や議会議員はどのような仕事をしているのか」「なぜ合併することになったのか。合併のメリットはいつごろ出てくるのか」「川、山、海、道路など自然豊かな南あわじ市にゴミが目立つ。住民一人ひとりの問題かもしれないが、どのような取り組み

をしているのか」「南あわじ市は、自然、農業、漁業、文化などいろいろな材料があるが、どのように全国にPRするつもりか」「市として地球温暖化対策にどのように取り組んでいるのか」など、市としても特に大きな課題として懸命に取り組み、対応しようとしているものばかりです。

市の四役、各部長が丁寧に答えさせていただきました。子どもたちの真剣で、ふるさとを思う純粋な心に感動し、心新たにいたしました。少子高齢社会の中で、将来、地域を支え、社会を構成する子どもたちや全市民のために、もつともつと自らも公僕として頑張らせてまいります。市民の皆様におかれましては、家庭、学校、地域社会の役割の中で、連携して子どもたちを見守り、声かけや目配りなどよろしくお願い申し上げます。